

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471902831
法人名	特定非営利活動法人やすらぎ
事業所名	やすらぎの杜
訪問調査日	平成24年10月26日
評価確定日	平成25年1月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902831	事業の開始年月日	平成17年10月1日	
		指定年月日	平成23年10月1日	
法人名	特定非営利活動法人やすらぎ			
事業所名	やすらぎの杜			
所在地	(237-0077) 神奈川県横須賀市浜見台2-14-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成24年10月12日	評価結果 市町村受理日	平成25年2月27日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

やすらぎの杜は笑顔を大切にしています。ご利用者の笑顔の為にも、ご利用者をただ介護される側に置くのではなく、共に考え、共に語り合い、共に笑い会える関係でいたいと考えています。ご利用者の笑顔が、ご家族、職員へ伝播し、ホームを取り巻く全ての人に笑い声が出るようなホームにしたいと思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成24年10月26日	評価機関 評価決定日	平成25年1月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームの経営母体は、NPO法人「やすらぎ」である。地元の有力者であった前の理事長が、地域への貢献として、有志と共にNPO法人を立ち上げ、このホームが開所された。このホームは、京急線追浜駅から徒歩で20分程度の、高台にある浜見台住宅地への道路の最終部分の坂道の途中にあり、緑に囲まれた静かな場所にある。ホームが出来て以来、夜道が一番暗かった場所が、夜間明るくなり地元の方からも感謝されている。開所して8年目を迎え、最初は不安定だったホームの運営も、福祉への志の高い若い男性施設長とベテランの女性管理者兼ケアマネジャーとの強い連携が出来上がってから改善が進んでいる。現在は、従業員も定着しつつあり、男女の比率もちょうど良く、利用者も男性利用者の占める割合が、半数近くいる。利用者・職員のどちらの面でもバランスが良い構成になっている。こうした流れの中で、ホームの方針である「笑顔に満ちたホーム」が、実現されており、職員・利用者とも笑顔と穏やかな表情で、会話されているのが、印象的なホームである。

②三項目からなる理念は、ユニット毎に事務所や目に留まりやすい場所にも掲示して、職員がいつも見て思い起こせるようにしている。理念に基づいた「利用者(人生の大先輩)に対する敬意」を忘れぬようにと謳った分かりやすい職員の心得を掲示して、理念の実践に取り組んでいる。また「気持ち良い挨拶の大切さ」を掲示すると共に、管理者が率先して実行し、職員も実行するよう仕向けている。

③利用者の最大の楽しみでもある食事については、ホームの方針で、利用者の良い食事を楽しんで頂くことを重視している。メニュー作成は、地元の専門家に頼み、食材の手配は、この法人の役員でもある地元のレストランのオーナーに任せ、多少割高でも品質の高い食材を調達している。料理の上手な職員も居て、職員全体の料理の腕のレベルアップにもなり、美味しい料理が提供されている。時には、バイキング形式の昼食として、利用者が食事を選択出来る試みも行われ楽しんでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	やすらぎの杜
ユニット名	1階もみじ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元出身の有志が立ち上げたホームであり、地域への貢献を第一の目標としている。別に介護理念も作成し、施設内の目に留まりやすい場所に掲示しているため、職員にも理念は浸透している。	地元の有志が立ち上げたホームであり、地域への貢献を第一の目標としている。別に介護理念・職員の心得も作成し、施設内の目に留まりやすい場所に掲示している為、職員にも理念は浸透している。年一度の全体会議では、理事長から訓話の形で理念の話をして頂く予定である。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の学童保育施設や民謡の会、老人会との相互交流が持てている。一般的に福祉施設は閉鎖的に思われがちであるが、幸い地元出身の職員が多く、地域交流しやすい環境ができています。	地元の町内会に加入している。地元の職員が多く、地縁で地域との交流が行われている。地元の学童保育施設との定期的な交流や民謡の会、老人会との相互交流が持てている。町内会のゴミ当番の時にクレームを受けたことが契機になり、コーラスのボランティアに来て頂くようになったケースもある。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中の福祉施設という役割を果たしたく、老人会の集まりで最近の福祉を取り巻く状況などについて講演させていただくことがある。特に福祉施設は内部が見えにくく、中で何が行われているのかわかりにくいという方が多い為、施設見学を呼びかけている。認知症の方々も援助があれば普通に生活できると言うことを理解していただき、認知症や「老い」に対する恐怖を無くして行けたらと思っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域民生委員と協力しあい地域貢献への方法を模索できている。色々な方の目でホームを見ていただくことで、様々な意見を取り入れ、介護の質の向上を目指している。	運営推進会議は、ほぼ2カ月に1回開催されている。メンバーである地域の民生委員と協力しあい地域貢献への方法を模索している。ご家族のも含めて色々な方の目でホームを見て頂くことで様々な意見を取り入れ、介護の質の向上を目指している。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所人事により、以前と担当職員が一新されてしまっており、また一から関係作りをしている。	市役所人事により、担当職員が、一新されたが、担当の指導監査かとは、実地指導も2年に一度行われ、必要な場合は、相談できる関係にある。横須賀市グループホーム協議会にも加盟しており、行事や研修会・講習会に参加している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どういった行為が身体拘束にあたるのか、身体拘束を行うことによってどんな弊害が出るのかを職員に指導し、身体拘束のない介護を徹底している。	どういった行為が、拘束にあたり、どんな弊害が出るのかを、会議の場や現場で職員に指導したり、マニュアルを作ったりして身体拘束のない介護を徹底している。また、講習等で得た知識も全職員に浸透するよう周知している。2階の玄関を出た所が坂道の道路に面していてリスクもあるが、見守りにより、玄関の施錠は、日中開放している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者様に対して尊敬の念を持つことは当然で、虐待という気持ちのみじんも起きてはならないということを職員に徹底している。共に支え生きる関係ができていれば虐待など起こるはずはなく、そういった姿勢を職員全てが持てるよう、肉体的精神的にフォローしていくことが事業所のつとめであると考えている。また講習などで得た知識も職員それぞれに浸透するよう働きかけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見人を立てていらしたご利用者様がおり、色々と相互協力することができた。その際に制度について後見人の方から詳しく説明していただき知識として身につけることができた。現在成年後見人を必要としている方はいないが、今後必要性が出てくれば尽力する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の条項が多い為、必ず数条毎に質問、確認の時間を取るようにしている。その後最後に全体を通した質問を受け、疑問点が残らないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まだまだ発展途上の施設である為、家族会や運営推進会議で出た適切な意見についてはどんどん取り入れるようにしている。特に外部評価アンケートの結果は利用者家族の生の声だと考えており、施設をよくする為の貴重な意見として捉えている。	家族会や運営推進会議で出た適切な意見について、積極的に運営にはどんどん取り入れている。ご家族とは面会の来訪時や年一回のユニット毎の昼食会形式の家族会で、意見を聞くようにしている。外部評価の際のアンケートは、ご家族の生の声の分かり、サービス改善の参考になっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在の介護が最上であると考えず、常に成長、改善してゆくという気持ちで施設運営している。職員の意見は月次ミーティングだけでなく、個人面談などでも聞き取りするようにしている。	施設長は、現在の介護が最上であると考えず、常に成長・改善して行くとの気持ちで運営しており、職員の意見は、極力聞くようにしている。施設長が若い事もあり、職員は、遠慮なく意見・要望を提言出来ているし、施設長も個人面談等で聞き取りを行い、柔軟かつ前向きに対応している。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	画一的な評価をせず、個々人の普段の努力を各人毎に評価していけるよう努めている。出勤日数の多い職員、夜勤の出来る職員など、それぞれの状況に応じパート職員にも賞与査定を行い、出来るだけモチベーションを高めてもらえるよう働きかけている。また、契約社員制度を新設し、より各職員の希望に合わせた雇用契約を結べるようになっていく。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年に一度職員に自己評価表を提出してもらっている。できていることできていないことを自分で再確認してもらい、それを元に個人面談を行いフォローするようにしている。また各研修にも積極的に参加してもらおう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市のグループホーム協議会を通じて他事業所との交流が出来ている。また一般職員も他の事業所との交流研修などに参加することで、他のグループホームの様子を知ることが出来ている。他のホームの良さを吸収してそれを利用者に活用していけるよう指導している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人面談を行い不安に感じていることなどをヒアリングしている。できるだけご本人が納得して利用できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度の面談で済ますことなく、複数回面談しながら家族の悩み事や要望を出来るだけ汲み取っていきけるようなヒアリングを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームと御本人のマッチングということを重要視している。グループホームに入ることが本当に御本人の為になるのか、在宅や特養などのサービスと比較した上で、ご家族とも話し合い、本人にとってグループホームという形が適していると納得していただいた上で、入居を検討していただくように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いのできる方には積極的に声をかけ、炊事、掃除などを職員と共に行っていただくようにしている。職員と利用者が共に作るホームでありたいと思っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしているからこそ家族の絆を強く持っていたり、外食や外出を無理のない程度にさせていただくことを勧めている。通院の際にも通院だけでなく食事やお茶などの時間を持たせていただくよう働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内会の方やご近所に住まれていた方々も訪問して下さっている。また以前ご利用者が所属していた民謡サークルの催し物に参加させていただいたり良質な関係を保てるよう支援している。	利用者が地元の方が多く、町内会の方やご近所に住まれていた方々の訪問を歓迎している。以前利用者が所属していた民謡サークルの定期公演に参加したり、ホームに来て頂いたりしている。ご家族対応で、お墓参りや実家に帰られたりする利用者もいる。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士が隣り合うような席順になるよう配慮し、共有フロアに来ることが楽しくなるよう働きかけている。多人数掛けのソファもあり、より近接なコミュニケーションを取っていただけるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に施設長により退居された方々のお見舞いをを行っている。現在、介護職員も同行しお見舞いをしている。と取り組んでいる。その甲斐あってか退居後にご家族様が新しい入居希望者をご紹介下さったり、退居後も信頼関係を保っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴が好きな方には毎日入浴介助したり、それぞれのニーズに合わせた介護が出来るよう努めている。また入居時に今までの暮らしの状況を家族から教えていただいております、なるべくそれに沿うよう支援している。	利用者が自分の思いを発露するのが難しくなっており、入浴好きの方には、毎日入浴介助したり、男性利用者は一般的に運動好きで、職員の声掛けで軽い運動を促したり、時にはバイキング形式の昼食を出し、選択出来る機会を与えたり、それぞれのニーズに合わせた介護が出来るよう工夫している。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にこれまでの生活歴やご趣味などを出来る限り、本人とご家族に聞き取りしている。また職員全員が把握できるよう、それに合わせた記入用紙を用意し、閲覧できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の様子を把握する為にケース記録簿を使い時系列順に様子を記録している。その日お手伝いして下さったことや、排泄回数、睡眠時間などの暮らしぶりを出来る限り詳細に記録し、状態把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来所されたときには出来る限り普段の様子を伝え、必要なケアはなにか、家族の手を借りることで利用者の心身が良好な方向に向かう可能性があるか等、家族を介護される側ではなく利用者を共に支える気持ちを持っていただけるよう話し合いを持つように努めている。医療面においては施設と家族、医師の連絡を特に密に取っている。	ご家族が来られた時は、利用者の普段の様子を伝え、必要なケアは何かについてご家族のご意見を聞いている。ご家族には、利用者を共に支えて頂くことを積極的に伝えている。ケアプランは、6カ月一度見直しているが、毎月のケアカンファレンスで利用者1、2名に付き職員全員でモニタリングを行っている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体記録とは別に時系列順の個別記録をつけており、毎日の様子、排泄、服薬など細かく記録している。月次会議の際にはそれを基にカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在医療連携加算はとっておらず、今後併せてターミナルケアも検討していくが、現状においても緩やかに終末期に向かっているご利用者については、当ホームで出来ることなどを説明しご同意いただいた上で個別に終末期の対応について家族、医師と協議している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアセンターに依頼し、地域のボランティアさんを紹介していただいている。ホームを訪問して下さったり、発表会などに参加させていただいたり利用者の楽しみの一つになっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は地元の医師にお願いしているが、本人やご家族の希望で他の医師による往診も可能である。現在、内科で2医院から往診にきて下さっている。	往診医は地元の医師にお願いしているが、本人やご家族の希望で、他の医師による往診も可能である。現在内科で2医院から定期的に往診頂いている。訪問歯科も2医院に来て頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	以前は医師の往診時にも看護職員からの気づきや日常の暮らしぶりを連絡相談していた。現在は看護職員を配置していないが、必要に応じて訪問看護師を依頼するつもりである。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの病状説明がある時には、家族に同意を得た上で同席させていただき、現在の状況を把握するよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の命はご本人だけのものと考えており、医療によって少しでも命がながられるのならそちらをお勧めすることも介護士としての勤めだと考えている。重度化しても医療によって何らかの回復が見られる可能性があるならばそれに賭けてみたいということをご家族と話し合っている。だが疾患によるものでなく、緩やかに終末期へ向かっている方のご家族にはホームでできること、できないことを説明した上で、できる限りホームで暮らしていける道を共に探すよう努めている。	ご本人の命は、ご本人だけのものと考えており、一日でも長く生きて頂くのが介護士の務めと考えている。緩やかな終末期の利用者には、ホームで出来る事、できないことをご家族に説明し、最終的には、医療に頼るべきとして、他の利用者への影響も考え、看取り介護には慎重に対処する方針である。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命講習に正社員、パート職員問わず参加させている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。福祉施設という特性を近隣の消防署に理解していただくことも重要と考えており、現在の利用者状況なども話し合っている。また22年1月にはスプリンクラー設備、自動通報設備の設置が完了した。しかし設備が作動する前のマンパワーによる防災こそが肝要であると考えている。	年2回の定期的な防災訓練を地域の方にも参加頂き行っている。福祉施設という特性を消防署に理解して頂くことも重要と考えており、現在の利用者状況等も話している。横須賀市のグループホームで初めてスプリンクラーの設備を設置した。建物の構造上、2階の出口が道路に面しており、避難経路には恵まれている。放火防止のためセンサーライトも設置している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であり、人生の達人であるという姿勢で接し、介護する側も何かを学ばせて頂くことが大事であると指導しており、個人を大切にしながら接するよう意識づけている。	人格の尊重は、理念にも謳われているこのホームの大事なポイントであり、施設長は、常々、利用者は、人生の先輩であり、人生の達人であるとの姿勢で接し、介護する側も何か学ばせて頂くことが大事であると指導しており、利用者の一人ひとりを大切にしながら接するよう意識付けている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自発的な意思表示が難しい方には、聞き取る努力をするよう職員に指導している。散歩の際も安全面には配慮しながら、どちらの道を通りたいかなど利用者の意志を出来るだけ表出してもらえよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度は起床・就寝時間の目安をつけているが、朝ゆっくり起きたい方、夜テレビをゆっくり見たい方もおり、一人一人のペースを尊重しながら生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性には出張の床屋さん、女性にはビューティヘルパーさんを招き整髪していただいている。希望者には行きつけの美容室へ外出できるようにするなど、その人の好みに合わせていくようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳など、その人に出来ることを考え、出来るだけ多くの場面でお手伝いしていただくよう働きかけ、共に食事を楽しめるよう働きかけている。	食事を楽しんで頂くことは、重要な課題と考えている。専門家にメニューをお願いし、それに基づきこの法人の役員でもあるレストランのオーナーに食材の手配を頼み、高品質の食材を使っている。料理の上手な職員もいて、美味しい料理を楽しんでいる。調理や配膳など、出来る事はお手伝い頂けるよう働きかけ、ともに食事を楽しめるようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に食事、水分量を記録し、各利用者の摂取量を把握するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	シフトで決まった職員が食後の口腔ケアのお手伝いをしている。歯槽膿漏の方などは本人によるケアが終わった後に歯科医指導に基づき職員により仕上げの口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔を画一的に捉えず、一人一人のパターンを見極め、その人に合わせた声かけや援助をしながら出来る限り自立を促すようにしている。	トイレは1ユニットに4か所あり、トイレが混み合う事はない。排泄間隔を画一的に捉えず、一人一人の排泄パターンを見極め、その方に合わせた声掛けや援助しながら出来る限り、排泄の自立を促している。規則的な排泄よりリズムが出てきて、便秘を防ぐことにもなっている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事で予防できるようバナナや芋類などの食物繊維を多く含む食材をメニューに取り入れている。加えて医師の指導により、便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望のある方には毎日入浴できるよう支援している。大まかな入浴時間はあるが、一人一人が入浴を楽しめるよう、見守りながらゆっくりと入浴していただくよう支援している。	週3回入浴を基本としており、大まかな入浴時間帯（午後2-4時）はあるが、一人一人が入浴を楽しめる様、見守りながらゆっくりと入浴して頂くよう支援している。希望のある方には、毎日入浴できるよう支援している。近場でミカンを栽培している方からの差し入れでミカン風呂を楽しむ事もある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた起床・就寝の支援をしている。日常的に朝食が延食になる方がいらっしゃるが、ご本人に合わせた食事時間に出来るよう無理のない時間に起床していただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在誰がどんな薬を飲んでいるのかを把握する為、一覧ファイルを作っている。また薬剤師による施設内研修を行い、職員一人一人の薬剤に対する理解力が深まるよう働きかけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理などそれぞれが出来ることをお手伝いしていただいている。ただ利用者という立場でなく、参加する楽しさや、役に立てる充実感を感じていただけるような支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には必ず近所を散歩するようにしている。外出行事の際は介護タクシーに協力依頼し、できるだけ沢山の利用者が外出できるようにしている。	天気の良い日には、坂道を上がった先の公園まで散歩するようにしている。散歩が億劫な方には、玄関前のスペースで外気浴を楽しんで頂いている。外出行事も久里浜の夢の国や桜見物等出かけている。これまで利用していた介護タクシーがこの6月で廃業し今後これに代わる方法を探している。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人のお小遣いをお預かりしており、外出時に希望があればお買い物していただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜早朝以外は自由に電話をかけてもらっている。信書も自由にやりとりしていただいている。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアにレクでの制作物や書道物などを掲示している。これらは毎月新しいものを掲示しており、季節に応じた内容にしている。	共有フロアには、レクで作られた制作物や書道の作品を飾り、毎月新しいものに掛け替えており、季節に応じた内容にしている。毎月のカレンダーは2人ずつペアで作り掲示している。半年ごとにカレンダーの出来栄えコンクールを行い楽しんでいる。男性利用者の中に将棋をされる方がおり、ユニットを越えて対戦を楽しんでいる方もいる。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアには3～4人がけのソファが設置されており気の合う仲間で過ごせる空間になっている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持ち込んでいただいている。殺風景な部屋にならないようにレクでの作成物や行事の写真なども飾るようにしている。	入居時に使い慣れた家具・備品を持ち込んで頂いている。殺風景な部屋にならないようにレクでの作品や行事の写真等を飾るようにして居心地良く過ごせるよう工夫している。利用者の中には、入居当初不穏だった利用者にご家族と相談し、ご主人のお位牌を持ってきて頂いたらその後落ち着いたケースもある。居室の案内に手作りのボードにそれぞれのお名前を書いて、ご自分のお部屋と感じて頂ける工夫をしている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも利用者の自立を促していけるよう、各居室やトイレに案内表示を付けている。居室の案内は手作りのボードに皆さんの名前を書き、よりご自分のお部屋と感じていただけるよう工夫している。	/	

目 標 達 成 計 画

事業所

やすらぎの杜（もみじ）

作成日

2012年10月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	18 37	外出行事への家族参加がない	少人数での外出で家族と利用者の絆を深めたい	事前に家族に連絡し参加を促す	1年
2	2	より多方面からのボランティア受入	利用者の趣味に合ったボランティアを招く	地域ボランティアセンターへの働きかけを強化	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	やすらぎの杜
ユニット名	2階すみれ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元出身の有志が立ち上げたホームであり、地域への貢献を第一の目標としている。別に介護理念も作成し、施設内の目に留まりやすい場所に掲示してるため、職員にも理念は浸透している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の学童保育施設や民謡の会、老人会との相互交流が持てている。一般的に福祉施設は閉鎖的に思われがちであるが、幸い地元出身の職員が多く、地域交流しやすい環境ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中の福祉施設という役割を果たしたく、老人会の集まりで最近の福祉を取り巻く状況などについて講演させていただくことがある。特に福祉施設は内部が見えにくく、中で何が行われているのかわかりにくいという方が多い為、施設見学を呼びかけている。認知症の方々も援助があれば普通に生活できると言うことを理解していただき、認知症や「老い」に対する恐怖を無くして行けたらと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域民生委員と協力しあい地域貢献への方法を模索できている。色々な方の目でホームを見ていただくことで、様々な意見を取り入れ、介護の質の向上を目指している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所人事により、以前と担当職員が一新されてしまっており、また一から関係作りをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どういった行為が身体拘束にあたるのか、身体拘束を行うことによってどんな弊害が出るのかを職員に指導し、身体拘束のない介護を徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者様に対して尊敬の念を持つことは当然で、虐待という気持ちがみじんも起きてはならないということを職員に徹底している。共に支え生きる関係ができていれば虐待など起こるはずはなく、そういった姿勢を職員全てが持てるよう、肉体的精神的にフォローしていくことが事業所のつとめであると考えている。また講習などで得た知識も職員それぞれに浸透するよう働きかけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見人を立てていらしたご利用者様がおり、色々と相互協力することができた。その際に制度について後見人の方から詳しく説明していただき知識として身につけることができた。現在成年後見人を必要としている方はいないが、今後必要性が出てくれば尽力する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の条項が多い為、必ず数条毎に質問、確認の時間を取るようにしている。その後最後に全体を通した質問を受け、疑問点が残らないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まだまだ発展途上の施設である為、家族会や運営推進会議で出た適切な意見についてはどんどん取り入れるようにしている。特に外部評価アンケートの結果は利用者家族の生の声だと考えており、施設をよくする為の貴重な意見として捉えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在の介護が最上であると考えず、常に成長、改善してゆくという気持ちで施設運営している。職員の意見は月次ミーティングだけでなく、個人面談などでも聞き取りするようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	画一的な評価をせず、個々人の普段の努力を各人毎に評価していけるよう努めている。出勤日数の多い職員、夜勤の出来る職員など、それぞれの状況に応じパート職員にも賞与査定を行い、出来るだけモチベーションを高めてもらえるよう働きかけている。また、契約社員制度を新設し、より各職員の希望に合わせた雇用契約を結べるようになっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年に一度職員に自己評価表を提出してもらっている。できていることできていないことを自分で再確認してもらい、それを元に個人面談を行いフォローするようにしている。また各研修にも積極的に参加してもらい働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市のグループホーム協議会を通じて他事業所との交流が出来ている。また一般職員も他の事業所との交流研修などに参加することで、他のグループホームの様子を知ることが出来ている。他のホームの良さを吸収してそれを利用者に活用していけるよう指導している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人面談を行い不安に感じていることなどをヒアリングしている。できるだけご本人が納得して利用できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度の面談で済ますことなく、複数回面談しながら家族の悩み事や要望を出来るだけ汲み取っていきけるようなヒアリングを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームと御本人のマッチングということを重要視している。グループホームに入ることが本当に御本人の為になるのか、在宅や特養などのサービスと比較した上で、ご家族とも話し合い、本人にとってグループホームという形が適していると納得していただいた上で、入居を検討していただくように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いのできる方には積極的に声をかけ、炊事、掃除などを職員と共に行っていただくようにしている。職員と利用者が共に作るホームでありたいと思っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしているからこそ家族の絆を強く持っていたきたたく、外食や外出を無理のない程度にさせていただくことを勧めている。通院の際にも通院だけでなく食事やお茶などの時間を持っていただくよう働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内会の方やご近所に住まれていた方々も訪問して下さっている。また以前ご利用者が所属していた民謡サークルの催し物に参加させていただいたり良好な関係を保てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士が隣り合うような席順になるよう配慮し、共有フロアに来ることが楽しくなるよう働きかけている。多人数掛けのソファもあり、より近接なコミュニケーションを取っていただけるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に施設長により退居された方々のお見舞いを行っている。現在、介護職員も同行しお見舞いをしていこうと取り組んでいる。その甲斐あってか退居後にご家族様が新しい入居希望者をご紹介下さったり、退居後も信頼関係を保っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴が好きな方には毎日入浴介助したり、それぞれのニーズに合わせた介護が出来るよう努めている。また入居時に今までの暮らしの状況を家族から教えていただいております、なるべくそれに沿うよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にこれまでの生活歴やご趣味などを出来る限り、本人とご家族に聞き取りしている。また職員全員が把握できるよう、それに合わせた記入用紙を用意し、閲覧できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の様子を把握する為にケース記録簿を使い時系列順に様子を記録している。その日お手伝いして下さったことや、排泄回数、睡眠時間などの暮らしぶりを出来る限り詳細に記録し、状態把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来所されたときには出来る限り普段の様子を伝え、必要なケアはなにか、家族の手を借りることで利用者の心身が良好な方向に向かう可能性があるか等、家族を介護される側ではなく利用者と共に支える気持ちを持っていただけるよう話し合いを持つように努めている。医療面においては施設と家族、医師の連絡を特に密に取っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体記録とは別に時系列順の個別記録をつけており、毎日の様子、排泄、服薬など細かく記録している。月次会議の際にはそれを基にカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在医療連携加算はとっておらず、今後併せてターミナルケアも検討していくが、現状においても緩やかに終末期に向かっているご利用者については、当ホームで出来ることなどを説明しご同意いただいた上で個別に終末期の対応について家族、医師と協議している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアセンターに依頼し、地域のボランティアさんを紹介していただいている。ホームを訪問して下さったり、発表会などに参加させていただいたり利用者の楽しみの一つになっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は地元の医師にお願いしているが、本人やご家族の希望で他の医師による往診も可能である。現在、内科で2医院から往診にきて下さっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	以前は医師の往診時にも看護職員からの気づきや日常の暮らしぶりを連絡相談していた。現在は看護職員を配置していないが、必要に応じて訪問看護師を依頼するつもりである。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの病状説明がある時には、家族に同意を得た上で同席させていただき、現在の状況を把握するよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の命はご本人だけのものと考えており、医療によって少しでも命がながられるのならそちらをお勧めすることも介護士としての勤めだと考えている。重度化しても医療によって何らかの回復が見られる可能性があるならばそれに賭けてみたいということをご家族と話し合っている。だが疾患によるものでなく、緩やかに終末期へ向かっている方のご家族にはホームでできること、できないことを説明した上で、できる限りホームで暮らしていける道を共に探すよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命講習に正社員、パート職員問わず参加させている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。福祉施設という特性を近隣の消防署に理解していただくことも重要と考えており、現在の利用者状況なども話し合っている。また22年1月にはスプリンクラー設備、自動通報設備の設置が完了した。しかし設備が作動する前のマンパワーによる防災こそが肝要であると考えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であり、人生の達人であるという姿勢で接し、介護する側も何かを学ばせていただくことが大事であると指導しており、個人を大切にしながら接するよう意識づけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自発的な意思表示が難しい方には、聞き取る努力をするよう職員に指導している。散歩の際も安全面には配慮しながら、どちらの道を通りたいかなど利用者の意志を出来るだけ表出してもらえるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度は起床・就寝時間の目安をつけているが、朝ゆっくり起きたい方、夜テレビをゆっくり見たい方もおり、一人一人のペースを尊重しながら生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性には出張の床屋さん、女性にはビューティヘルパーさんを招き整髪していただいている。希望者には行きつけの美容室へ外出できるようにするなど、その人の好みに合わせていくようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳など、その人に出来ることを考え、出来るだけ多くの場面でお手伝いしていただくよう働きかけ、共に食事を楽しめるよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に食事、水分量を記録し、各利用者の摂取量を把握するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	シフトで決まった職員が食後の口腔ケアのお手伝いをしている。歯槽膿漏の方などは本人によるケアが終わった後に歯科医指導に基づき職員により仕上げの口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔を画一的に捉えず、一人一人のパターンを見極め、その人に合わせた声かけや援助をしながら出来る限り自立を促すようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事で予防できるようバナナや芋類などの食物繊維を多く含む食材をメニューに取り入れている。加えて医師の指導により、便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望のある方には毎日入浴できるよう支援している。大まかな入浴時間はあるが、一人一人が入浴を楽しめるよう、見守りながらゆっくりと入浴していただくよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた起床・就寝の支援をしている。日常的に朝食が延食になる方がいらっしゃるが、ご本人に合わせた食事時間に出来るよう無理のない時間に起床していただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在誰がどんな薬を飲んでいるのかを把握する為、一覧ファイルを作っている。また薬剤師による施設内研修を行い、職員一人一人の薬剤に対する理解力が深まるよう働きかけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理などそれぞれが出来ることをお手伝いしていただいている。ただ利用者という立場でなく、参加する楽しさや、役に立てる充実感を感じていただけるような支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には必ず近所を散歩するようにしている。外出行事の際は介護タクシーに協力依頼し、できるだけ沢山の利用者が外出できるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人のお小遣いをお預かりしており、外出時に希望があればお買い物していただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜早朝以外は自由に電話をかけてもらっている。信書も自由にやりとりしていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアにレクでの制作物や書道物などを掲示している。これらは毎月新しいものを掲示しており、季節に応じた内容にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアには3～4人がけのソファが設置されており気の合う仲間と過ごせる空間になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持ち込んでいただいている。殺風景な部屋にならないようにレクでの作成物や行事の写真なども飾るようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも利用者の自立を促していけるよう、各居室やトイレに案内表示を付けている。居室の案内は手作りのボードに皆さんの名前を書き、よりご自分のお部屋と感じていただけるよう工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

やすらぎの杜（すみれ）

作成日

2012年10月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	18 37	外出行事への家族参加がない	少人数での外出で家族と利用者の絆を深めたい	事前に家族に連絡し参加を促す	1年
2	2	より多方面からのボランティア受入	利用者の趣味に合ったボランティアを招く	地域ボランティアセンターへの働きかけを強化	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。